こども新聞
週刊かほピョンプレス
毎週日曜発行
2025 12/7
・河北新報社 TEL.022-211-1111（月曜から金曜）

お仕事調べ隊

きょうのテーマ

みんなの将来

みんな動こう　みんな知りたい　みんな守ろう　みんなトモダチ

心は熱く、現場では冷静に

消防士

男の子に人気の職業のイメージがある消防士だけど、女性隊員も火事や救急の最前線で活躍しているよ。仙台市消防局には今年4月現在、40人の女性隊員が所属。まだ職員全体の3・5％と少ないけれど、強い使命感を胸に市民の暮らしを守っているんだ。

（8面に関連記事）

「交通救助発生。仙台市若林区…」

11月5日夕、仙台市若林消防署。車両同士の交通事故を知らせる出場指令が入り、庁舎内はピリッとした空気に包まれました。

警防課の三浦梅香さん(28)は地図で現場の位置を確認し、現地で指揮を執る指揮車の運転席に滑り込みました。指令が入って出発までわずか約3分。「現場に行ってみないと分からないことも多く、指令が入るといつも気持ちが引き締まります」

仕事がある日は午前8時半から24時間体制で働きます。日中は訓練や消防設備の立ち入り検査などを行い、火災や事故が発生すれば急いで現場に向かいます。

現場は常に危険と隣り合わせ。消防の仕事を始めて1年目、火災現場に初めて行ったときの記憶は今も鮮明です。民家が燃え上がり、テレビでしか見たことがないような光景が目の前に広がっていました。

消防車に異常がないか点検をする三浦さん＝11月21日、仙台市若林消防署

「消防学校の訓練を通じて消防士になった自覚はありましたが、大きく炎上する現場を見て『すごい仕事に就いたな』と改めて実感しました」

三浦さんは緊迫した現場でも冷静に対応できるよう日々の訓練に力を入れ、休日はジムに通って体を鍛えています。

身長は156センチと男性隊員に比べれば小柄ですが、小さい体を生かせる現場もあります。鍵が掛かった家で救急要請があったときは風呂場の小窓から中に入り、動けなくなった人を救出したこともありました。

「傷病者が女性であれば女性隊員の方が対応しやすいケースもあり、女性も十分に力を発揮できる仕事だと思います」と三浦さん。「なりたくてなった仕事なのでやりがいをすごく感じています」と晴れやかな表情を浮かべました。

この日　何の日

◇10日（水）　ノーベル賞授賞式

毎年、この日にスウェーデンとノルウェーで開かれ、受賞者に賞金や賞状、メダルが贈られます。今年は日本人研究者が2人選ばれました。日付はノーベル賞創設者アルフレッド・ノーベルの命日にちなみます。

きょうの紙面

2面　作って遊んでサイエンス
3面　3分チャレンジ
4・5面　わが校わがまち　スクール通信
6面　キホンがわかる　こども英語
7面　投稿特集
8面　三浦梅香さんに聞く